事業者における放課後デイサービス　自己評価結果（公表）

事業所名　SMILE STEP KURA

		チェック項目	はい	どちらとも言えない	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 工夫している点
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	2	0	適切ではあるが、座って遊ぶ、立って遊ぶ、座って宿題をしたい利用者の配置の仕方をもう少し工夫できるのではないか
	2	職員の配置数は適切である	1	3	2	日によって職員のばらつき在り人数によっての職員だけではなく、支援に合わせた人員配置が必要 土曜日特支学校の利用者が多いためもう少し人員が欲しい
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	4	0	入口の階段に手すりがほしい 雨が降ってきたとき用に屋根を広げてほしい。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設と振り返り）に、広く職員が参画している	2	2	2	パート職員への情報共有をもっと徹底してほしい
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	1	0	職員会議等で、どういった意見がでているかの共有はしているが、すべてを改善できているわけではない
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	1	0	している
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	4	0	外部評価がされいるかが分からないため、可視化してもらいたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	2	0	研修が少し多いような感じがします。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	1	0	利用契約時に、アセスメントシートを使い適切に行っています。情報が足りなかった場合には、再度親御さんに確認をし、児童発達支援管理責任者が児童発達計画を作成しています。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	2	0	十分に実施出来ていないのが現状です。少しずつ遠城寺式乳幼児分析発達検査を行い、個々の発達状況に合わせた支援をしていきます。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	2	0	活動表がある程度できた段階で、どういう活動があるかを職員全員で確認できる時間を設けたい。
	12	活動プログラムが固定化されないように工夫している	5	1	0	運動以外での活動も取り入れてるため、活動内容と組み方を定期的に話し合いを行う
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	2	0	平日、休日、長期休暇に応じて課題を設定できていない。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	4	2	0	集団活動に参加できない子は、個別で職員が付きマンツーマンで行うことができている
	15	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援内容や役割分担について確認している	6	0	0	昼礼で確認をしている 長期休みの際は前日打ち合わせをする必要がある
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	4	0	現状各々仕事があるためできていない、少しでも時間を取れるようにしていきたい
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	1	0	週に一度まとめて活動の反省会を行っている
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4	2	0	半年に一回おこなっている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	4	2	0	5領域に則した活動を複数組み合わせて支援を行っています。
関係機関	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	5	0	1	一人の意見だけではなく、他職員に意見を聞いた状態で参加している。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	5	1	0	必要時には、学校と連絡を取り合い、情報共有を行っています。
	22	医療的ケアを必要とする子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	3	0	現在、医療的ケアを必要とする子どもの受け入れを行っていませんが、今後このようなお子さんが入って来られる場合には、連絡体制をきちんと取り、全員でお子さんの体調を見ていきます。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	1	0	新規のお子さんであったり、退所される利用者に関しても、他事業所や保育園等と情報交換をしています。

関や保護者との連携	２４	学校を卒業し、放課後デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	3	0	保育園や他事業所併用の際には、情報共有として基本情報やアセスメントシート等の内容を提供しています。
	２５	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	3	0	他事業所の方が来ての研修はある
	２６	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	3	0	児童館に行くことはたまにある
	２７	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	1	5	0	児童発達事業所情報共有会などに参加し、他事業所との情報交換を行っています。
	２８	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	2	4	0	送迎時や、お迎えの際に、本日あった出来事などを必ず伝えるようにしています。子どもの発達状況や課題については、きちんと共通理解出来ていない場合もあるので、今後親御さんとしっかりと話をしていきます。
	２９	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	3	1	母子通園ではないため行っていませんが、送迎時やお迎え時に、本日の様子を伝えると共に、具体的な対応方法やその時の表情、その後の様子等、細かく伝えています。
保護者への説明責任	３０	運営規程、支援内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	3	0	利用契約の際に、運営規定、支援内容、利用者負担等について、丁寧な説明を行っています。
	３１	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	2	0	対面だけでなく、LINE　WORKSやお電話でも相談に乗り、助言などをしています。
	３２	父母会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	4	0	父母会自体がないですので、保護者同士の繋がりが出来るように、今後検討していきます。
	３３	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	3	3	0	苦情に関しては、相談窓口担当者を配置し、利用契約の時に説明しております。苦情があった場合には、お電話などして、迅速に対応しています。
	３４	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	4	0	会報は発行出来ていないですが、活動内容や行事などは保護者の皆様に発信しています。
	３５	個人情報に十分注意している	5	1	0	お預かりした個人情報の取り扱いには十分に注意しております。
	３６	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	2	0	障害のある子どもに対して、分かりやすい言葉で話しかける努力をしています。
	３７	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	3	0	地域の方にKURAを知ってもらえる交流があった方が、災害時等に助け合えると思うので、今後そうしていきたいです。
非常時等の対応	３８	緊急時対応マニュアル、防災マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	3	0	職員は周知していますが、保護者の方まで周知がされていないので、今後周知していきたいです。
	３９	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	3	0	非常災害時に備えて避難訓練は実施していますが、回数は十分とは言えないので、今後増やしていきたいです。
	４０	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	2	0	虐待防止委員会での研修や、DVD研修などで得た情報は全員に共有しています。
	４１	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後デイサービス計画に記載している	3	3	0	利用契約時に、保護者の方に身体拘束をする場合についての説明をし、きちんと同意してもらってから、サインをいただいています。
	４２	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	3	0	アセスメントの際に、アレルギーの有無を確認しています。
	４３	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	3	0	何か危険なことがあった場合には、報告書などで職員全体に伝えるようにしています。